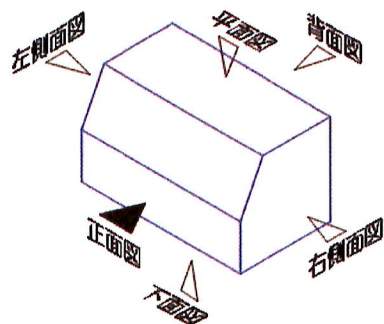


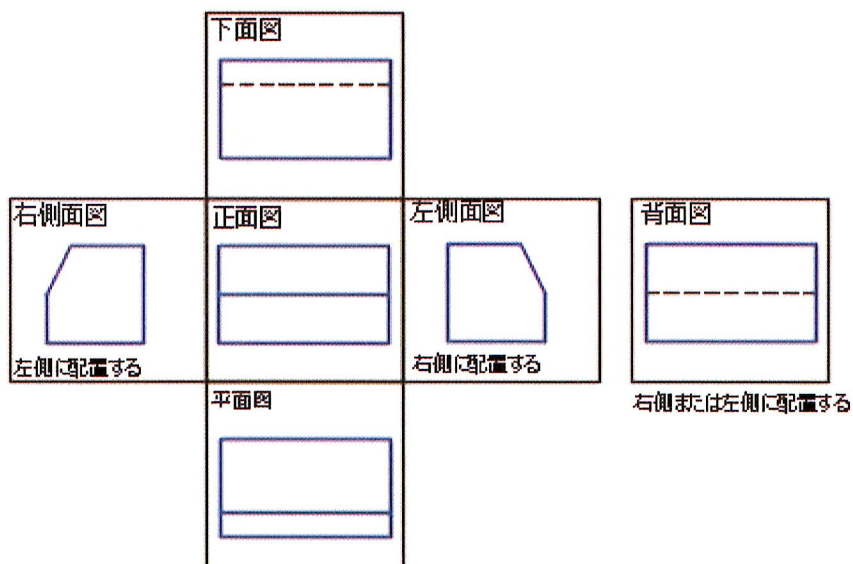
[3-4] 第一角法・第三角法・矢視法

a) 第一角法

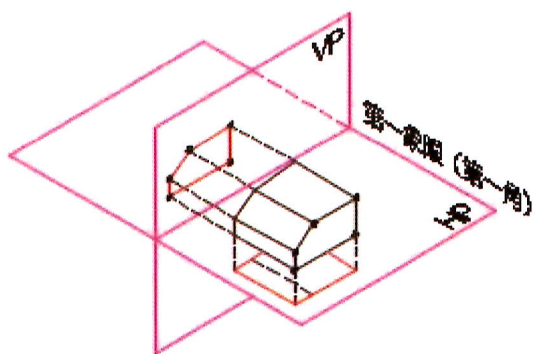
- ・第一象限（第一角）に対象物を配置して、投影する方法です。
- ・対象物を投影面の前に置いて、見えた形状を対象物の先にある投影面に図形として表すことです。



第一角法を表す記号



第一角法による投影図の配置

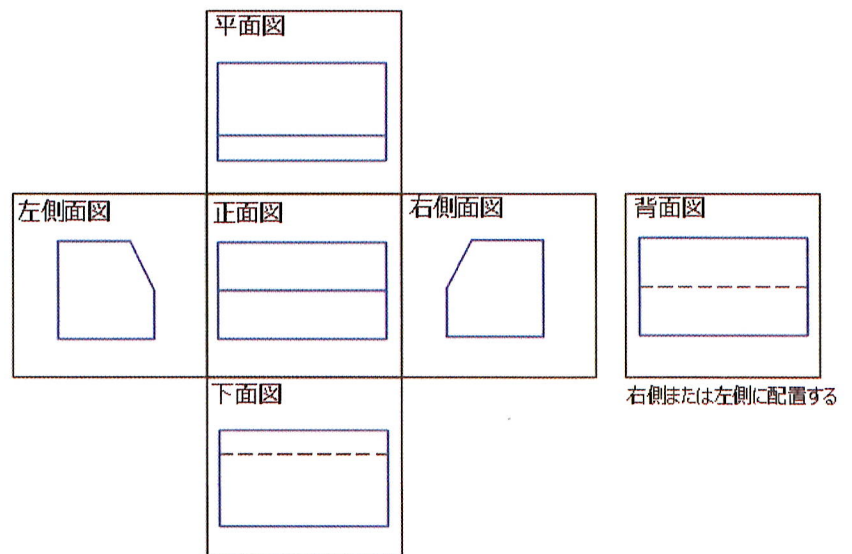
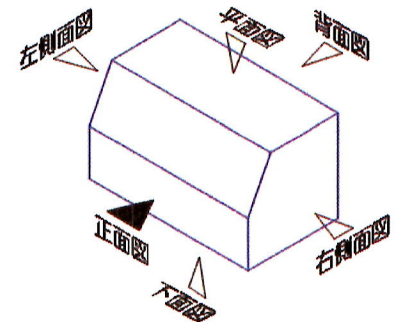


メモ

b) 第三角法

- ・第三象限（第三角）に対象物を配置して投影する方法です。
- ・投影面を対象物と「目」の間に置いて、見えた形状を図形として表すことです。

- イ) 正面図、平面図、側面図の配置（位置）は定まっている。
 ロ) 正面図、平面図、側面図の配置の寸法は同じである。
 ハ) かくれ線、中心線等の線種ははっきりと図示する。

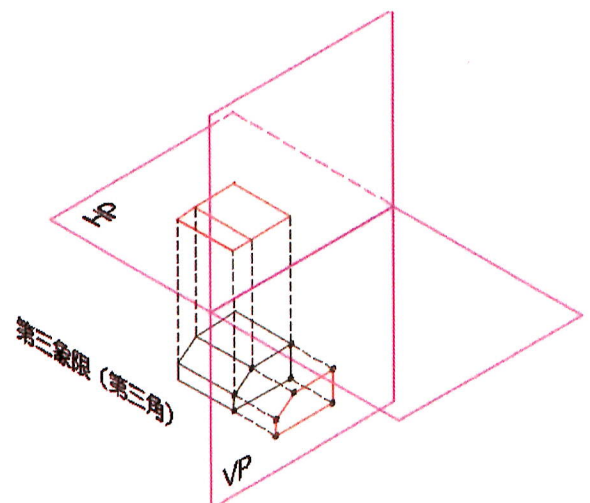


第三角法による投影図の配置



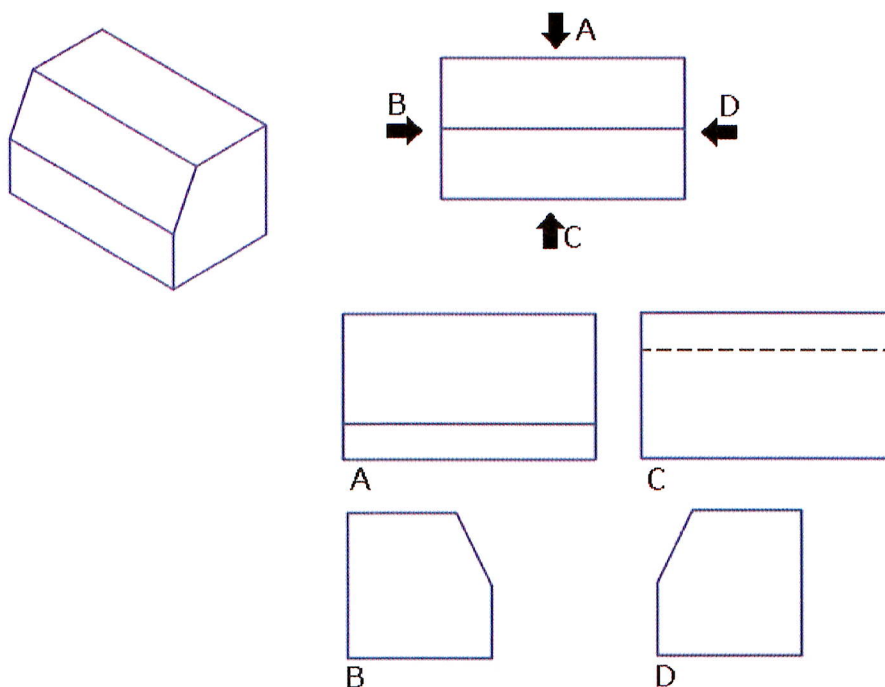
第三角法を表す記号

メモ



c) 矢視法

- ・第一角法、第三角法を適用しない場合は、[矢印]を用いてさまざまな方向から見た投影図を、任意の位置に配置する方法です。
- ・主投影図以外の各投影図は、投影方向を示す矢印を、ラテン文字の大文字で指示します。(A、B…Z)
- ・文字は、投影の向きに関係なく上向きに記入します。



—矢視法による投影—
作図 例

メモ